

今日が今年のJリーグ最終戦。でも、我ら岐阜にはまだ公式戦が残っている！「元日(国立に)行っちゃいますか?!」
岐阜1-0千葉【天皇杯4回戦】

FC岐阜対千葉戦は1対0で勝利。前半、セットプレーからの吉本選手のゴールを守りきった勝利、FC岐阜は初の天皇杯ベスト8進出で名古屋グランパスとの対決が実現。両チームの熱い戦いに期待しましょう。(ハマッチ)

千葉は全く歯車がかみ合っていませんでした。モチベーションも低かったのでしょうか。それに比べて岐阜は自分達のプレーを貫いてましたね。傷めた選手は心配ですがあと一つ勝てば2千万円が手に入ります！まさに自分の糧は自ら掴み取るしかありません。今度こそ名古屋に勝って全国に岐阜の名を轟かせましょう！(ミスター珍道)

後半のアディショナル・タイムが最初4分と出て、次に6分と表示され、「なんだあ~?それ?」と思ってたら再び4分の表示。「お~い、つごう1分もやるのかよ!!取り過ぎだろ?」点差はわずかに1点だけど、そんなツッコミができるくらい勝利に確信が持ったアディショナル・タイム。そして、主審の手がセンター・サークルへ向けられた瞬間、ホイッスルも掻き消けすように巻き起こる歓声と抱擁の渦。J参入2年目で勝ち取った対J1初勝利。東海1部時代の草津戦(0-3)、JFLの徳島戦(0-2)、そして昨年の名古屋(0-1)と、天皇杯で格上と対戦した時はいずれも零敗が続いていたが、今回でその記録にもめでたく終符。万歳四唱も、ラインダンスも、吉本のマイクパフォーマンスも何もかもが格別の味わいだ。千葉ほどではないものの、岐阜ゴール裏を埋めたみんなの笑顔。いつまでも片付かないダンマク。クールダウンの際中にいきなりニット帽を投げ入れる3番。練習着を投げ入れるフリをする13番。選手もサポもおなかの底から喜びがこみあげる。

「どこでも行くよ~」「どこまでも行くよ」改めてそう思った、初冬快晴の午後の出来事。それにしても、千葉...。何か、完全に壊れてしまっていたような気がした。後半の千葉が攻め込んでいた時だった。CKを得たのに、誰もコーナーフラッグに向かわない。誰が蹴るのが決めてない?確かに、それまで蹴っていたのは、たぶん谷澤で、彼が交代したあととはいえ、アレはおかしい。そもそも負けてるんだから一番近くの選手が行くくらいの気持ちがあなけりゃウソだろ...、と。「降格が決まった直後の選手ってこうなんだ...」とか「こんなんでは降格もやむなしだな...」と、変に納得してしまえるまったく低調なパフォーマンス。

だが、同じく降格が決まった大分は、重圧を逃れたのかその後勝ち点を重ね、いつのまにか千葉に勝ち点1差と迫っている。やはり、昨季降格を免れたのが奇跡だった、ということなのか?旧ユーゴスラビア代表を率い90年W杯ベスト8進出し、後に日本代表監督を務めたオシムの下ナビスコ杯で頂点にたったのは、ほんの数年前のことだったが...。しかし、今はオシムも去りオシム・チルドレンも次々と移籍し、効果的な補強もないままシーズンを迎え、勝つべき試合も勝ち切れない。そんな状況に、関係者もサポーターもある程度覚悟ができていたのかも知れない。

だからこそ、降格が決まった等々力でも拍手とコールが起こったのだろう。だが、この試合。終了後には期せずして怒号とブーイングが選手、スタッフに浴びせられる。千葉のサポーターは来季に向け、この天皇杯で「一年でJ1に戻る」という意気込みを見せたかった。某巨大掲示板や個人ブログにもそれは現れていた。だから、選手にも気持ちを見せてほしかった。大分のように、一昨年の広島のように。見せてくれると信じていた。川崎戦の後、涙ながらにサポへのお詫びと意気込みを表明していた選手たちを信じていた。だが...

開始直後の深井の惜しいシュート以降、ベースを握り全力で走り回り、戦う姿勢を見せたのは、カテゴリーが下の岐阜だった...、いや、岐阜だけだった。やや荒れて見えるピッチに転び、滑る千葉の選手たち。個々の能力は岐阜より上。たしかに、ところどころでは危険な動き、鮮やかなテクニックを見せてはくれる。しかし、組織的な運動は感じられなかった。そもそも、岐阜のスカウティングをやってきたのだろうか?攻めるにせよ守るにせよ、中途半端な感じは否めず、決勝点も集中力の欠如から。試合後の会見で、千葉の監督が口にしたメンタリティ。ひとりひとりの気持ちを高め、チームとして集中することは、思うほど簡単ではない、ということだ。「降格が決まった直後は感情も昂揚し、その場の雰囲気もあって強い気持ちを語れるけれども、時間がたつにつれ、いろんな不安や雑音や迷いが現れて、試合に打ち込むことができないうんじゃないか?」千葉戦前の日記で、勝利のために必要な要因として千葉側のヤル気を上げたけど、図らずもそうなってしまったようだ。岐阜としては千載一遇のチャンスを確実にモノにできたね。3億が30億に勝ったんだから。桶狭間、かな?

う~ん、なんか書き始めたら岐阜のことより千葉のことを長く書いてしまったね(苦笑)まあ、これも他山の石。ひとつの教訓として、この試合の千葉のことも覚えておきたい。あ~、そうそう。大事なことをひとつ。終了間際の、あの、どフリーは、確実に決めような!!> 洗一ババ。アレが決まれば、千葉は選手もサポも終わった。そして、オレたちは終了を待たずして、アイダを歌い出していたハズなんだ。それは、ただ気持ちがイイッ、というだけではなく、来季同じカテゴリーで戦う相手に強烈な衝撃、トラウマになっちゃうくらいのヤツをお見舞いできてたハズなんだ。負けただけで、ある千葉サポブログにはこう記してあった。「来年は、とにかく岐阜に勝つのが目標です。」と。これで終了前にアイダまで歌ってたら、「もう、岐阜は見るのもイヤです。」となっていたかもしれない。決めるところはキメようぜ!!> オール

とはいえ...、ついに岐阜もよそ様から「勝つことが目標」と言われるようになったんだな(笑)勝ち続けましょう、千葉に。さて、ともかくにも準々決勝。全国の8強に進出ですっ!!ということは、リーグ戦が終わってもこのメンバーで試合ができるんですっ!!次の決戦場は、名古屋市瑞穂陸上競技場。対戦相手はグランパス。今までの借りを返すべく、あちらに負けにくいくらい瑞穂に結集しようじゃありませんか!!(ぐん、)



画: ひらっち

today's guest
徳島ヴォルティス
2008 J2 第15位

対戦成績

- 第0節 08/03/23 岐阜2-徳島
- 第2節 08/06/28 徳島0-岐阜
- 第3節 08/08/17 岐阜1-徳島

2009J2

順位表 第5節

勝点、得失点差、得点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	仙台	105p	+48	86	H	A	A
2	大阪	104p	+48	99	A	H	A
3	湘南	95p	+31	81	A	H	H
4	甲府	94p	+29	74	H	A	H
5	鳥栖	85p	+19	69	H	A	A
6	札幌	78p	+13	72	A	H	H
7	東京V	73p	+7	66	H	A	H
8	水戸	73p	-8	68	A	H	H
9	徳島	72p	+16	66	A	H	A
10	福岡	64p	-19	50	H	A	A
11	草津	62p	-13	61	H	A	A
12	岐阜	59p	-11	60	---	---	---
13	富山	58p	-12	46	A	H	A
14	熊本	58p	-15	65	H	A	A
15	愛媛	46p	-26	53	A	H	H
16	横浜C	43p	-27	41	A	H	H
17	栃木	37p	-38	36	A	H	A
18	岡山	36p	-42	40	H	A	A

次回公式戦!

89th天皇杯準々決勝
名古屋グランパス戦
12/13(日) 15:00
@名古屋市
瑞穂公園陸上競技場

投稿募集!

gdaidohr@hotmail.co.jp
お待ちしております!

FC岐阜大好き通信(岐大通)
12/5号
編集発行:『岐大通』製作委員会
今号の製作担当: ささたく & 吉田鑄造

御礼

1年間のご愛読、誠にありがとうございました。来年のJ2は19チームとなりますので、再び「全ホーム戦発行」を目指してがんばりたいと思います。よろしく願い申し上げます。

点の取り合いは、最後にまたしても…。 岐阜3-愛媛【第4節】

F C岐阜対愛媛戦は3対3で引き分け。常に先手先手を取られる形になるも西川、佐藤選手のゴールで2対2の同点に。橋本選手が逆転ゴールを決めて勝ちを確信するもロスタイムに追いつかれ残念な引き分け。残り試合は4。10位の草津との差は5。もう負けられない。次の試合もサポーター全員でF C岐阜を盛り上げよう！。F C岐阜頑張れ！（ハマッチ）

前半は愛媛FCの緩急をつけた攻撃に翻弄されたという印象。岐阜の選手がいたところで引きずり出されて空いたスペースに厳しい攻撃を食らっていた。それゆえ前半最後のプレーで同点に追いつくことが出来たのは実にラッキー、儲けものといっただろう。問題は後半。愛媛が前から厳しい守備に来なくなったこともあったがいろんなところを修正して一気に攻勢にでてまんまと逆転したのに終了間際に追いつかれてしまった。前半の丸っきりの裏返し。これだとストレスがたまる。幸い今日の相手は地力のある相手、白黒ははっきりつけよう。（ST57）

1月のリーグ戦5試合のうち3試合でアディショナル・タイムに失点。逃げ切るのか。ダメを押すのか。残念ながら、その辺の意志統一ができていないように見受けられる。そんなことを試合後のバクスタで、その後の某所で話し合った。

でも、実は意識はあるけど、疲れもあって遂行できないのかも？祝杯をあげるまで、あと2分だった。1月は残念なことやツライことが多かった一カ月だった。そんなワケで引き分けたけど、気分は敗戦。先制されたのを前半終了間際に追いつき、後半再び突き放されたがまたまた追いつき、さらに逆転。しかも、勝ち越し弾は“マタドール”橋本の今季初ゴール！8千人近い人が観ている状況で最高の筋書き、となるはずだったのだが…。やはり、勝ち越し後の洗一のパー直撃弾や、優大のミスショットが痛かった。決めるべきところは確実に決める。ぜひ、肝に銘じてほしい。そして、見ている方、とくにバンデラの中にいる者は、それをサポートするようアゲていかなきゃね。共に育ちましょう！（ぐん、）

8試合ぶりの勝点3は9試合ぶりの完封 岡山0-2岐阜【第4節】

F C岐阜対岡山戦は2対0で勝利。リーグ戦10位を目標とする岐阜にとっては落とせない勝利を高木選手と佐藤選手のゴールで見事な勝利。草津との勝ち点差は僅かに2！。目標の10位が見えて来た！。次の試合もサポーター全員でF C岐阜を盛り上げよう！。F C岐阜頑張れ！（ハマッチ）

今季2回目の桃太郎スタジアム。相変わらず、ホスピタリティがあるという人懐っこい対応振り。さすが雨の少ない瀬戸内気候「晴れの国」を標榜する岡山らしさ。試合前のダンマク掲出にも対応はおおらかだ。北関東の、「お値打ちネーミングライツスタジアム」をホームにする某クラブにはぜひとも見習っていたいただきたい（笑）。

さて、肝心の試合といえは、キックオフからの5分くらいはそれなりにイケそうだったが、次第にペースを握られる。まあ、よく見る光景だ（苦笑）。とはいえ、正直お粗末な内容は、一向に改善される気配がなくハーフタイム。この時点では「第2クールのリプレイかっ！？」（同じ桃太郎での岡山戦）」と、頭を抱えたくなった。先週は天皇杯で秋田。そして、この岡山遠征というクソめ日程の影響もあったのかな？

後半も「クロスバー」様に助けられるなど、綱渡りな展開。ただ、岡山も自ら最下位たる所以をいかになく発揮してくれたお陰もあり、徐々に好機も増えてきた中で、正吾の疲れをいとわないうフリーランに岡山DFがたまたま手を出してのPKゲット。これを和正が冷静に決める。そして、立て続けに洗一のワンタッチ・ゴール！一瞬の隙をついて、DFの前に足を入れた技ありのシュート。いや、イイものを見させていただきました。

これで、今季の岡山との対戦はすべて終了。横浜、湘南、水戸に続いて今季負けなし、で終えることができた。オマケに、岡山に対しては3試合通じて無失点。同一クラブ相手に1シーズン無失点に抑えたのはJリーグ加入後、初めてのことだ。これから、限りなくいろいろな記録を積み重ねていくこのクラブの、新しい「初めて」の場面に立ち会えたことを素直に喜びたいと思う。来季はぜひとも「3タテ」を見せてほしいね！あ…、そういういえば、岡山にはアノ地域決勝以来4戦無敗なんだ。それにしても、岡山のバクスタの雰囲気は、正直うらやましい。一年目からビッグ・フラッグあるもんな…。ま、こちらは一歩ずつ着実に歩んで行きましょう。でも、一気に天皇杯掲げたとしても、それはそれでナンの問題ありませんから。（ぐん、）

来年J1の相手に先制も残念な逆転負け。 C大阪2-1岐阜【第5節】

F C岐阜対C大阪戦は1対2で逆転負け。前半8分に西川選手のゴールをあげるも2連続失点で逆転負け。アウェイで先制点を取っただけになんとか勝ち点が欲しかった。リーグ戦もあと1試合、目標の10位は厳しいけどとにかく全力を尽くして最終戦で勝利をもぎ取る。F C岐阜頑張れ！（ハマッチ）

岐阜市内から車で約三時間と近い長居スタジアムにて行われたC大阪戦。相手はホーム最終戦で、今限りで引退する西澤の引退セレモニーもありということで、なかなかの入り。試合は、優大のゴールで前半早々に先制するも、C大阪に19分と23分に立て続けに決められる。23分のミドルシュートに関しては10本打って1回入るかというようなシュートなので仕方がないかなと思ったけど、引き分けでもよかったような試合だったと思う。

試合終了後には、C大阪の西澤の引退セレモニー。岐阜サボも片付けながら何人か見ていた。いつか岐阜もチームの顔と呼ばれるような選手のための立派な引退セレモニーをやりたいなあ。また、その為にはチームが存続して規模も大きくならないと。そんなことを感じた遠征でした。（緑の小太鼓）

西川のゴールで早い時間帯に先制できたものの、やはり相手もJ1昇格は決まったものの、J2優勝が懸かっているとあってモチベーションが高く、瞬間に同点そして逆転を許してしまった。特に2点目のミドルシュートは、これはもう打った相手を褒めるしかないというような見事なシュートだった。

後半に入ると、相手にもスペースが生まれてきてボールを奪ってからのカウンターに活路を見出そうとしたが、ある程度の位置までボールは運べるものそこから慎重になってしまったから、なかなかフィニッシュまで持っていけなかったのが歯痒かった。ミドルレンジから思い切って打ってみてはと思う場面もあった。スコアこそ1-2というスコアだったものの、相手に余裕を持った試合運びをされてしまったようなきらいもあった。（岐阜の誇り）

入場者数は公式発表で17,000人。どう少なく見積もっても、そのうち16,500人は大阪を応援していただろう。そして、その3分の2くらいが集まったゴール裏が見せたコレオグラフィー。チームカラーのピンクと紺のボードを掲げただけの単純なモノだったが、空席も見えないほど埋め尽くされた中で行われたそれは、照明に美しく映えて今季最後のホームゲームを鮮やかに彩っていた。いつか、長良川でもこういう情景が見られる、というより当たり前になることを願う。ただ、うらやましかったのはそれだけで、選手紹介の時に音響を使っていた（録音したコールをスピーカーから流す）のはなぜなんだろう？

そういういえば、試合中もかなりの時間でコールが中断していたようにも感じた。あれが大阪のスタイルなのか？それとも、引退する元日本代表のラスト・シーンに見とれていたためか？そんな雰囲気の中で、開始直後のピンチを防ぎ前半8分という早い時間での先取点。優勝を狙う大阪相手に、このまま前半をしのげれば…、と思っていたが、さすがにそんな甘くはなかった。とはいえ、2点とも、特に2点目に至っては「もう二度と撃てないだろ？」と思うような弾丸シュート。実際、決めた後は疲れたのか、どこにいるのかわからないような出来で後半途中に交代してた。札幌戦といい、この日といい、どうしてこんなめったにないようなゴールが決まるのか。

それでも、個人能力で勝ると思われた大阪から、何度もチャンスを作り出し、最後まであきらめず戦った。だが、いかんせんシュートを撃つ状況が少なく、一点差のまま終わってしまった。大阪の選手とは能力というか、テクニク、スピードに差があるのかもしれない。だが、その分戦う気持ち、勝利への意志を忘れずに積極果敢にチャレンジしてほしいし、しなきゃいけない。プロになるくらいだから自分の得意な形はあるのだろうが、相手に慣れられる、さらにナメられてしまっただけは意味がない。相手を迷わせ、自分に余裕を、幅を作るためにも、積極的にゴールを狙おう。ワンタッチで裏を突こう。もつとできる！チーム全体で勝ちに行こう！！勝つために最善の手を打ち、結果を出してもに喜びを分かち合いたい。徳島戦はみんながひとつになって、長かったリーグ戦を締めくくろうっ！！（ぐん、）

Living in Woods

本庄工業株式会社

<http://www.honjp-woodream.com/>

浦和を破った松本を秋田で撃破。
次はJ1が相手だ！
松本 1-4岐阜【天皇杯 3 回戦】

徐々に快勝！嬉しかったです。高木選手のPKで試合は決まりましたね。パスが繋がるようになったのは永芳選手と橋本選手の連携が良かったからだと思います。次戦千葉を撃破し目指せ日本の4強！全国に名を轟かせ賞金を獲得しよう！
(ミスター珍道)

F C岐阜対松本山雅戦は4対1で快勝。浦和を破ったチームを相手に会心の試合内容。F C岐阜はベスト16進出。グランパスとの名岐ダービーまで頑張れ！。次の試合もサポーター全員でF C岐阜を盛り上げよう！。F C岐阜頑張れ！(ハマッチ)

トーナメント表を見たときは、まさか秋田で隣県とクラブとやることになるとは、まったく夢にも思わなかった。これも某J1クラブのおかげかな？(苦笑)

秋田での公式戦は2年ぶり。JFL時代に仁賀保でやったTDKとの試合以来。今回は、秋田市内ではなく山形との県境だったし、11月の強烈に肌寒い雨に濡れながらの試合だった。それに比べれば、この日は日差しもあり防寒に気を遣うことのないコンディション。共に緑をチームカラーとするクラブの「隣県グリーンダービー」には絶好の日和の中で、試合は始まった。だが、岐阜はあいもかわらず出足が鈍く、開始からしばらくは松本のペース。それでも、20分を過ぎたころにCKから先取点。決めてくれたのは30番。しかし、吉本が来てから、CKは確実に得点の気配がするようになったのは嬉しいかぎりだ。後半に入って追加点。鮮やかな、というか「松本、どうした？」というくらいのみごとなサイドからの崩しで洗一が決める。ただ、このまま押し切れないのが岐阜テイスト。直後に1点返されると、そこからは松本のターン。一気呵成に押し寄せる松本の選手とサポーターを跳ね返し続け、スキをついての縦パス、その後の切り返しとパスにたまたまDFがファウルしてPKゲット。再び2点差となってからは落ち着きを取り戻し、4点目は優大が鮮やかに左アウトサイドのダイレクト・シュートをゴール右スミに決めて、文字通りケリをつけた。

負けたら終わり、のトーナメント。勝てば賞金も手に入る。リーグ戦も終盤になって、このメンバーで戦える時間も少なくなっていく。だけど、次の4回戦・ベスト16を勝ち抜けば、リーグ戦が終わった後も試合ができる。相手はJ1になるけれども、臆することなく戦いを挑もう。少しでも長く、このメンバーと時間を共有したい。(ぐん、)

嗚呼、不憫なり、秋田県協会。浦和が来ると思ってただろうなあ...(苦笑)。なんでも、2回戦(松本x浦和)の前に、事前に浦和サポ・リーダーさんと秋田県協会とで打ち合わせをやっていたのだそう。そのことは是非や功罪を問う気はない。あれだけの動員力を備えたサポ軍団が押し寄せて来るのだから、準備を整えておくことは大切なことだ。もっとも、その通りに進まないのが『一発勝負』のカップ戦の面白さ、広げて言えば『サッカー』の面白さでもあるのだけど。

観客580人だか前であつた松本x岐阜。序盤から激しくプレスをかけてくる松本。相変わらず、クリアーなのか繋いで攻めていくのかははっきりしないウチの守備陣。でも、あのプレスが90分続くとはいえないので、キチンと耐えていけばチャンスはあると思っていた。でも、2回戦で松本にやられた浦和サポもそう思ったかも...という展開の中で、CKから吉本のヘッド。「いい感じ」と「まだわからん」が混ざった印象で前半終了。後半は、縦の崩しからゴール正面で洗一。2点差。でも、これで松本の心が折れないのは、やっぱり浦和に勝っているからか。小林が1点を返すと松本の攻撃陣がガゼン元気になっちゃって。前線2枚にプラスして今井の動きにやられまくりのサイド。でも、ここで慌てずにセーフティに凌いだのが大きかったかな。

“松本タイム”を乗り切ると、秋田が倒されてのPKを和正が落ち着いてゲット。4点目は優大の右足。『一発勝負』のカップ戦に得点差はあまり関係がない。とはいえ、全国社会人大会で優勝して『地域決勝』に向けて意気上がる松本に対して、キッチリ「上のカテゴリー」の勝負強さを見せることが出来たのは、よかったと思う。(吉田鑄造)

データコーナー・F C岐阜 2009

- 第01節：栃木 0-1岐阜【得点者】高木和正(30分)
- 第02節：岐阜 0-1甲府
- 第03節：愛媛 3-0岐阜
- 第04節：岐阜 1-0草津【得点者】染矢一樹(88分)
- 第05節：徳島 3-1岐阜【得点者】高木和正(81分)
- 第06節：岐阜 0-2福岡
- 第07節：水戸 3-3岐阜【得点者】朴俊慶(03分・86分)
染矢一樹(89分)
- 第08節：岐阜 0-2山台
- 第09節：湘南 2-2岐阜【得点者】片桐淳至(19分)
佐藤洗一(64分)
- 第10節：岐阜 0-1鳥栖
- 第11節：富山 3-0岐阜
- 第12節：岐阜 0-0東京
- 第13節：大阪 1-0岐阜
- 第14節：岐阜 4-0岡山【得点者】菅和範(24分)
西川優大(39分・79分・89分)
- 第15節：札幌 3-0岐阜
- 第16節：横浜 1-1岐阜【得点者】染矢一樹(55分)
- 第17節：岐阜 1-0熊本【得点者】片桐淳至(19分)
第1クール終了=勝点16(4勝4分9敗)：第15位
- 第18節：福岡 0-1岐阜【得点者】佐藤洗一(54分)
- 第19節：岐阜 1-1甲府【得点者】佐藤洗一(34分)
- 第20節：仙台 2-0岐阜
- 第21節：岐阜 2-2湘南【得点者】富成慎司(41分)
秋田英義(70分)
- 第22節：岡山 0-0岐阜
- 第23節：岐阜 3-0徳島【得点者】佐藤洗一(17分)
菅和範(33分)
富成慎司(83分)
- 第24節：熊本 5-2岐阜【得点者】西川優大(29分)
田中秀人(70分)
- 第25節：岐阜 0-0富山
- 第26節：鳥栖 1-1岐阜【得点者】高木和正(80分)
- 第27節：岐阜 2-1愛媛【得点者】高木和正(73分)
染矢一樹(89分)
- 第28節：岐阜 2-0横浜【得点者】佐藤洗一(77分)
押谷祐樹(86分)
- 第29節：草津 0-1岐阜【得点者】OwnGoal(60分)
- 第30節：岐阜 2-1大阪【得点者】嶋田正吾(37分)
佐藤洗一(60分)
- 第31節：東京 3-0岐阜
- 第32節：岐阜 1-1栃木【得点者】高木和正(63分)
- 第33節：甲府 2-2岐阜【得点者】佐藤洗一(50分・64分)
- 第34節：岐阜 0-2札幌
第2クール終了=勝点41(10勝11分13敗)：第12位
- 第35節：岐阜 3-2横浜【得点者】高木和正(23分)
嶋田正吾(71分)
菅和範(80分)
- 第36節：仙台 2-1岐阜【得点者】西川優大(28分)
- 第37節：熊本 2-2岐阜【得点者】嶋田正吾(07分)
富成慎司(29分)
西川優大(37分)
佐藤洗一(65分・67分)
- 第38節：岐阜 1-1湘南【得点者】菅和範(37分)
- 第39節：富山 0-2岐阜【得点者】嶋田正吾(17分)
西川優大(58分)
- 第40節：岐阜 3-1水戸【得点者】佐藤洗一(60分)
西川優大(76分・89分)
- 第41節：栃木 2-1岐阜【得点者】嶋田正吾(79分)
- 第42節：岐阜 1-2甲府【得点者】吉本一謙(48分)
- 第43節：鳥栖 1-0岐阜
- 第44節：岐阜 1-1東京【得点者】吉本一謙(44分)
- 第45節：草津 1-0岐阜
- 第46節：福岡 1-0岐阜
- 第47節：岐阜 3-3愛媛【得点者】西川優大(44分)
佐藤洗一(57分)
橋本卓(63分)
- 第48節：岡山 0-2岐阜【得点者】高木和正(79分)
佐藤洗一(86分)
- 第49節：岐阜 2-1札幌【得点者】佐藤洗一(32分・67分)
- 第50節：大阪 2-1岐阜【得点者】西川優大(08分)

「いらっしやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休：日曜日(今日は営業しています)



J 100ゴールはやはりこの男・佐藤洗一 岐阜2-札幌【第49節】

データコーナー・J 100ゴールの軌跡

F C 岐阜対札幌戦は2対4で敗戦。前半はDFのズレから3失点、負けた事は悔しいが最後まで諦めない姿勢が佐藤選手の2ゴールをうんだのだと思います。残り試合はあと2試合、しっかり勝って10位でリーグ戦を終わろう！。F C 岐阜頑張れ！（ハマッ）

札幌戦はいつも通りグリーンズでフルボランティアに参加。雨にも関わらず7843人も観客が来場してくれたのは、嬉しかったですね。（勝てばもっと嬉しかったのですが.....涙）それと試合前にとても嬉しかった事が一つ。これまでも他サポで募金に参加してくれた例は沢山有りましたが、札幌サポは沢山の人が連れだって参加してくれました。このご恩は岐阜がもっともっと強くなる事と、もし他所で困ったチームが有った時に微力ながら協力する事でお返しする事とします。札幌サポ様、本当に有難うございました。

（シュナ）
開始20分くらいで大量3失点。中盤の守備が全く機能してない。さらに札幌の外国人選手のパワーとスピードの前に最終ラインがこらえきれないように見える。そこで左サイドの秋田が攻撃参加しないようにして永芳が攻撃を仕切るのに集中できるようにチーム全体のバランスを調整した。これがかなり上手くってその後はヒヤッとする場面もあるものの立ち向かうことが出来るようになった。結局後半も失点し負けはしたものの2点を返すことが出来、なんとか一矢報いることが出来たかな？というくらい。最悪の負け方ではなかったのがせめてもの救い。しかし札幌とはかみあわせがよくない。

（ST57）
甲府・湘南・東京V・仙台、そして札幌。今季勝てなかったのは、この5つ。このうち、引き分けることもできず3戦全敗となったのが仙台と札幌だ。とりわけ、札幌には3戦とも完敗の感が強く、特に外国人選手にやられた印象がある。あ～、そういういえば5つともJ1経験したところばかりだな。それにしても札幌はウチとやる時だけ違うチームみたいだ。プレスのかけ方交わし方、雨の日の鉄則「グラウンダーのシュート」。2点目は恭平も悔しいだろうが、鉄則に忠実だったシュートを誉めるしかないし、3点目はノーチャンス。とんでもないよな？>ダニルソン。来年もいるのかしらん？

とはいえ、この試合は開始からの30分の印象が強かっただけで、録画とかを見ても残りの3分の2はちゃんと試合になってたし、選手は誰一人終了まで諦めずに戦ってた。序盤で3点差をつけられても、気持ちの折れた選手はいなかった。ありがとう。3連敗したけれども今季のうちに点は取れたし、来季も札幌とは顔を合わせるんで必ず恩返しを！

とにかく、ボクにできることはひとつしかない。これからも試合が終わるまで彼らと共に戦い、彼らを支えていっただけだ。彼らを押し上げるコト以外のモノはいらない。それにしても、よそとの試合やダイジェスト見る限り、ホームだろうがアウェイだろうが、ずいぶんズブズブなんですがね>札幌はっ(;)!まさか、本長を取られた恨み...? そうだ。きっと、岐阜との試合だけ勝利給が倍増されるに違いないっ。い～や、そうだっ！そうに決まってるっ！！

まあ、冗談はともかく、札幌サポの方が大勢「You & Me 募金」に賛同してくださいました。この場を借りてお礼申し上げます。見てないだろうけど...。それから、この試合でF C 岐阜がJ通算100ゴールを達成した。そして、得点ランキングに、しかもこの時期に、岐阜の選手がランクイン。負けたけど、それでも、キミの名前が岐阜に残ることが素直に嬉しい。ありがとう、洗一。そして、おめでとう。

（ぐん、）

001 08年 0節	甲府	小島宏美	002 08年 0節	山形	高木和正
003 08年 0節	山形	片山真人	004 08年 0節	山形	片山真人
005 08年 0節	山形	高木和正	006 08年 0節	山形	菅和範
007 08年 0節	H徳島	梅田高志	008 08年 0節	H徳島	片山真人
009 08年 0節	H広島	菅和範	010 08年 0節	A福岡	片桐淳至
011 08年 0節	A福岡	片桐淳至	012 08年 0節	A福岡	高木和正
013 08年 0節	A福岡	梅田高志	014 08年 0節	A福岡	梅田高志
015 08年 0節	H横浜	片山真人	016 08年 0節	H横浜	吉村光示
017 08年 0節	A湘南	川島真也	018 08年 0節	A湘南	OwnGoal
019 08年 1節	A水戸	森山泰行	020 08年 1節	A水戸	片山真人
021 08年 1節	A水戸	片山真人	022 08年 1節	A熊本	梅田高志
023 08年 1節	A熊本	片桐淳至	024 08年 1節	H甲府	菊池完
025 08年 2節	A横浜	菅和範	026 08年 2節	A草津	片山真人
027 08年 2節	A徳島	小島宏美	028 08年 2節	H山形	片桐淳至
029 08年 2節	H山形	片桐淳至	030 08年 2節	A山台	片桐淳至
031 08年 3節	H徳島	大友慧	032 08年 3節	A草津	片桐淳至
033 08年 3節	A広島	片山真人	034 08年 3節	H福岡	相川進也
035 08年 3節	A水戸	川島真也	036 08年 3節	A水戸	梅田高志
037 08年 3節	A水戸	片桐淳至	038 08年 3節	A水戸	大友慧
039 08年 4節	H山形	佐藤洗一	040 08年 4節	A熊本	菅和範
041 08年 4節	H鳥栖	片桐淳至	042 09年 0節	A栃木	高木和正
043 09年 0節	H草津	染矢一樹	044 09年 0節	A徳島	高木和正
045 09年 0節	A水戸	朴俊慶	046 09年 0節	A水戸	朴俊慶
047 09年 0節	A水戸	染矢一樹	048 09年 0節	A湘南	片桐淳至
049 09年 0節	A湘南	佐藤洗一	050 09年 1節	H岡山	菅和範
051 09年 1節	H岡山	西川優大	052 09年 1節	H岡山	西川優大
053 09年 1節	H岡山	西川優大	054 09年 1節	A横浜	染矢一樹
055 09年 1節	H熊本	片桐淳至	056 09年 1節	A福岡	佐藤洗一
057 09年 1節	H水戸	佐藤洗一	058 09年 2節	H湘南	富成慎司
059 09年 2節	H湘南	秋田英義	060 09年 2節	H徳島	佐藤洗一
061 09年 2節	H徳島	菅和範	062 09年 2節	H徳島	富成慎司
063 09年 2節	A熊本	西川優大	064 09年 2節	A熊本	田中秀人
065 09年 2節	A鳥栖	高木和正	066 09年 2節	H愛媛	高木和正
067 09年 2節	H愛媛	染矢一樹	068 09年 2節	H横浜	佐藤洗一
069 09年 2節	H横浜	押谷祐樹	070 09年 2節	A草津	OwnGoal
071 09年 3節	H大阪	嶋田正吾	072 09年 3節	H大阪	佐藤洗一
073 09年 3節	H栃木	高木和正	074 09年 3節	A甲府	佐藤洗一
075 09年 3節	A甲府	佐藤洗一	076 09年 3節	H横浜	高木和正
077 09年 3節	H横浜	嶋田正吾	078 09年 3節	H横浜	菅和範
079 09年 3節	A山台	西川優大	080 09年 3節	A熊本	嶋田正吾
081 09年 3節	A熊本	富成慎司	082 09年 3節	A熊本	西川優大
083 09年 3節	A熊本	佐藤洗一	084 09年 3節	A熊本	佐藤洗一
085 09年 3節	H湘南	菅和範	086 09年 3節	A富山	嶋田正吾
087 09年 3節	A富山	西川優大	088 09年 4節	H水戸	佐藤洗一
089 09年 4節	H水戸	西川優大	090 09年 4節	H水戸	西川優大
091 09年 4節	A栃木	嶋田正吾	092 09年 4節	H甲府	吉本一謙
093 09年 4節	H東京	吉本一謙	094 09年 4節	H愛媛	西川優大
095 09年 4節	H愛媛	佐藤洗一	096 09年 4節	H愛媛	橋本卓
097 09年 4節	A岡山	高木和正	098 09年 4節	A岡山	佐藤洗一
099 09年 4節	H札幌	佐藤洗一	100 09年 4節	H札幌	佐藤洗一

歴代ゴールランキング (001~100)

16 Goals	佐藤洗一
11 Goals	片桐淳至
10 Goals	高木和正、西川優大
8 Goals	片山真人、菅和範
5 Goals	梅田高志、嶋田正吾
4 Goals	染矢一樹
3 Goals	富成慎司
2 Goals	小島宏美、川島真也、大友慧、朴俊慶、吉本一謙、OwnGoal
1 Goal	吉村光示、森山泰行、菊池完、相川進也、秋田英義、田中秀人、押谷祐樹、橋本卓

そして.....

101 09年 5節 A大阪 西川優大 |

to be continued !! (吉田铸造)

ALADDIN

何も無い店だけど... 心の花が咲く...
何も無い店だけど... 心、癒される...
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

最終節特別企画：今年のベストゴール・ベストゲーム・MVPは？

【ベストゲーム】

第3節 ホーム・大阪戦（2-1で勝利）

個人的に、「古巣」C大阪に勝つことは、「Jリーグに入会した時からの夢だったので、勝利の瞬間、涙が出ました。またひとつ、夢をかなえてもらったと。後半30分過ぎからは、「がんばれー」「早く終われー」とか叫びながら撮影してました。（あくび）C大阪に前半に先制されるものの、嶋田の初ゴールで前半のうちに同点に追いつく。そして、後半に佐藤のゴールで逆転。合計2-1での勝利。この試合、サポの皆が待ち望んでいた嶋田のゴールでもたし、C大阪のゴールと佐藤のゴールも共にビューティフル。両チームともにレベルの高い試合でFC岐阜の今後に期待を持たせてくれました。

でも、僕個人の本音というか希望としては、12/13の試合に勝ち、12/29に行われるであろう天皇杯準決勝が今年のベストマッチになって、元旦国立での決勝に向かってほしいものです。

（緑の小太鼓）

第3節 ホーム・横浜戦（3-2で勝利）

ベストゲームの定義は難しい。完勝の試合は相手ののできの悪さも知れないし、撃ち合いは華々しいけどある意味守備がザルなんだろうし、緊迫した1-0は下手したらしょぼい試合だし...でも、いろいろ考えたけど、やっぱり常識的に第3節横浜戦でしょう。経営危機が伝えられる中、過去最高の入場者の中で、先制し逆転されさらに再逆転するというエキサイティングな試合展開。しかも同点ゴールは、洗一のシュートがバーにあたり真下に落ち一度はチャンスが潰れたかに見えたのを、追走してきた嶋田が押し込み、スタンドは歓声 ため息 爆発というジェットコースター体験。さらにその上に、勝ち越し点はキャプテン和範のあまりにも美しいスーパーボレー！その瞬間のどよめきとその後試合終了するまで続いたスタジアムが一体となった高揚感は最高でした。おまけに試合後は選手のお見送りつきで、運営的にも満点でした。（cruyff）

第3節 アウェー・富山戦（2-0で勝利）

JFL時代から勝利がなく、今季の初対戦でも無得点完敗の相手にのしをつけてのお返しのできた試合。終始試合を支配し、2得点とも流れの中から生まれた鮮やかなゴール。文句のつけようがない。完勝！（ぐん、）スコアは2-0ではあったが、安定した試合運びで、相手に付け入る隙を与えなかった。終始安心してみていられる試合であった。（岐阜の誇り）

なんとといっても、第3クールのアウェー富山戦。内容と結果すべてに満足。（ち～な）

天皇杯4回戦 千葉戦（1-0で勝利）

チーム全体が最後まで集中して最高のディフェンスができたゲーム。巻に仕事をさせなかった秀人と吉本。谷澤、深井の縦への突破にしっかりと対応ができた秋田と富成。最終ラインの4名全てが各々の役割を完遂できてたと思います。

他のメンバーも集中力を切らすこと無く、「まずディフェンスから」というこのゲームのゲームプランを確実かつ愚直に遂行してくれました。ただ、このゲームのMVPは和範でしょう。いつもめも増して豊富な運動量と広範な行動半径によって攻守両面にわたって積極的にボールに絡み、まさに岐阜の心臓として中盤に君臨していたと思います。

加えて、松永監督はじめチームスタッフがジェフのストロングポイントをしっかり把握し、それを「消す」プランを打ち出せていたことも勝利に繋がったのでしょ。まさにチーム全体としての勝利だったと思います。（マツヒラ）

普段は「俺たちに失うものはない」って思ってるんですが、これに関しては、勝利して得られたものは非常にデカかった。

（ささたく）

【ベストゴール】

染矢一樹 第0節 ホーム・草津戦

第3節大阪戦での洗一のバイシクルと悩んだが、東海一部時代の天皇杯から続いた草津の呪縛（笑）を解き放った一撃に一票。あの勝利で、新人が多く不安と覚悟で覆われていた今季に光が差した。（ぐん、）

菅和範 第1節 ホーム・岡山戦

チームが長いトンネルを抜け出すきっかけになった一発。その後の西川選手のハットトリックも、このゴールがあったからこそ。この日の菅選手は、目で見てわかるくらいに気合いが全身にみなぎっていました。「ボールは気持ちの強い方に転がる」まさにそんなシーンでした。ゴールの後、サポーターのもとへ走って行ったのもとても印象的でした。（あくび）

秋田英義 第2節 ホーム・湘南戦

秋田の豪快なミドルシュート。思い切って放ったシュートが綺麗な放物線を描いて、ゴール右上隅に突き刺さった時には、思わず鳥肌が立ったものであった。（岐阜の誇り）

嶋田正吾 第3節 ホーム・大阪戦

録画を一番繰り返し見て視た、正吾選手の“コロコロ”初ゴールに1票。次は豪快なミドルを期待。（バジン）

菅和範 第3節 ホーム・横浜戦

横浜FC戦でのキャプテン菅の逆転ボレー弾を選びました。試合展開も劇的でした。（ささたく）

富成慎司 第3節 アウェー・熊本戦

セクシー過ぎて鼻血が出るゴールでした（笑）。和正のノールックのヒールパスから中に切れ込んだ富成がズドン。和正が富成の動きを事前に把握、信頼していたからこそそのヒールパス。それを思い切り良く叩き込んだ富成。両者による素晴らしいアンサンプルが堪能できた素晴らしいゴールでした。（マツヒラ）

佐藤洗一 第4節 ホーム・水戸戦

ゴール前で相手DFを背負って秋田からのパスを受け、DFを左手で制しながら右へ流れ、相手より身体半分前に出た瞬間に素速い反転から強引にシュート！まさに個人能力で力づくで相手をねじ伏せた感じのこれぞ『ストライカー』というゴールでした。こういう『ゴラッソ』を生み出せる選手が我がクラブにも育ってきているという現実にうれしくなりました。（cruyff）

【MVP】

橋本卓 MF

この人をおいて無いでしょう！実はバリバリ関西人であるこの2枚目は、小柄ながらマツョでしかも超絶のテクニシャン。DFライン前の危険ゾーンを1人で守り、パスをさばき、チャンスと見れば攻めあがる。危険なゾーンでパスを受け、相手の選手のプレスを受けサポを冷や冷やさせるんだけど、意外なほどの身体の強さではなかせし、それどころかルーレットを披露しくぐりぬける。橋本が1人でボランチをこなせるからこそ和範が前目にはるダイヤモンド型の中盤が可能になり、第2クールの快進撃へとつながっていった。文句なしに岐阜の心臓です。正直いってJ2中位のクラブには勿体ない存在。来季もここにいてくれることを祈るばかりです。（cruyff）

2年目でキャプテンの重責を担い、若いチームをまとめた和範。開幕からシーズンを通し、最終ラインを守り続けた秀人。無蔵のフリーランで敵を蹂躪し、ゴールの味も思い出した正吾。いまや岐阜の大看板、攻撃のコンダクター和正。そして、ルーキーにして岐阜のエース。得点ランキングベスト10入りのババ洗一。いろいろ候補がいる中で、最後までどちらにしようか悩んだのは洗一と卓。決め手は、今季序盤に低迷したのは、卓がケガもあって欠場したから。今季中盤にホームでの不敗記録を始め、好調を維持できたのは卓のポテンシャルが如何なく発揮されたから。今季終盤に失速したのは卓へのマークがキツくなったから。卓が能力を発揮できるかどうかで、試合の趨勢が決まる。今季最も重要な選手。よって、彼がMVP！（ぐん、）今期ほとんど1ボランチで試合をコントロールした“マタドール”橋本卓選手を選びます。（ささたく）

高木和正 MF

今季のFQ卓は、高木和正のチーム。和正選手の成長は、チームの成長とそのま結び付いていました。昨シーズンまでのかわいいう和正君が、たくましい、精悍な表情を見せるようになった後半戦。自信は、こんなにも人の表情を変えるものなんです。これからは、和正選手のさらなる進化を見続けたいです。（あくび）

佐藤洗一 FW

片桐離脱後の岐阜のエースストライカーとしての成長振りはお見事。（岐阜の誇り）

田中秀人 DF

ほぼ安定して試合に出場し、成長が著しく思える。（ち～な）

菅和範 MF

とても悩みましたが愛すべきキャプテンに最大級の賛辞を捧げたいと思います。

豊富な運動量。広範な行動半径。献身的なプレー。攻守にわたった「ツボ」を押さえ切る察知能力。岐阜の心臓であり、プレーの潤滑油として欠かせない存在だったと思います。加えて、入団2年目の選手ながらキャプテンという重責をよく全うしてくれました。

印象的なのは、選手交代の際にもスタンドの前を通りながらサポーターをがっつり盛り上げてくれる場面。「全員で勝つぞ！」って気持ちがビシビシ伝わる最高にイカした「プレー」だと思います。来季も誇るべきキャプテンと共に戦ってきたいです。（マツヒラ）

岐阜で戦ってくれてありがとう！ 去りゆく選手へのメッセージ

GK 21 水谷 充俊
FC岐阜B(現2ND)からの昇格組。B時代はFWとして2得点も取っている。セルジオを師と仰ぎまじめに練習に励んでいた。昔から見ているだけに成長が分かる。とにかく練習内では声がよく届く。「気が優しくて力持ち」そんな言葉が似合う男。今シーズンは怪我もあり成長度合いが少なかった感じを受けた。残念ながら出場機会も少なく今回契約満了となってしまった。残念である。本人と直接話をさせてもらったが、必ず「プロサッカー」を続けると約束してくれた。

DF 3 菊池 完
東京都リーグから来た思わぬ助っ人。彼のおかげでJFL昇格したといっても過言ではない。オールドルーキーと称され、ホーム戦ではJ初ゴールを決める。キャラクター性も含め、チーム内では抜群の存在感を示していた。フットサル仕込みのテクニクは皆も納得するところ。筆者が一番印象に残っているのは、JFL時代の流通経済大学戦のゴール。最終ラインから片桐とのワンツーでゴールと流れるようなシーンを見せてくれた。夢を叶えるためとはいえ、こんな環境の中で三年半もの間本当にありがとうございます。

MF 8 徐 冠秀
Kリーグで韓国代表の座を争った選手。練習に黙々と取り組み、クールダウンまできちんと行う紳士的な選手。練習では強烈なミドルシュートを見せるなど、さすがといえる能力の持ち主。しかし、言葉の壁は厚かったようだ。朴俊慶がケアしている姿が印象的。試合中は本来のポジションで使われることが少なく不完全燃焼。運動量がそれを表している。最前線でフィジカルの強さを使うこともできただろうが、佐藤&西川の成長でそれもかなわず。チャンスを生かし切れなかったことが悔やまれる。

MF 13 大友 慧
JFL昇格を争ったTDK秋田からの電撃移籍。当時は皆が驚いた。本人の軽い口調とは裏腹に、サッカーに対する姿勢はとても素晴らしい。今シーズンは選手会長としても活動。練習で彼がゴールを決めると仲間が大盛り上がり。ホーム勝利時の「万歳四唱」を仕掛けてくれたのは彼(彼曰く「ドイツ式のこと」)。岐阜でのボランティア活動には積極的に参加してくれた。「岐阜に来てボランティア精神の大切さやサッカーをやらせてもらえることの喜びを知った」と本人談。ルーキー時代の彼を知っているのだが、まさかこの岐阜の地で十年後に再会できるとは思わなかった。気持ちはずでに切り替えておりサッカーは続けるとのこと。活躍を願っている。

FW 24 片山 真人
彼にはピッチ内外で本当に楽しませてもらった。昨年は序盤に電撃的なゴールを量産し、一躍時の人と成る。しかし今シーズンはチームスタイルの変更により周囲とあわなくなってしまう。今のチームでは攻撃のチャンスは少ない。だから少しでもFWが多く機会を作らないといけない。それができなかったことが悔やまれる。皮肉にも放った総シュート数がそれを物語る。米田コーチ曰く「相手の裏へ抜ける動きは素晴らしいものを持っている」とお墨付き。ホーム初勝利の徳島戦のゴールを挙げる方が多いだろうが、私は1-7で負けた広島戦のゴールを挙げる。あのプレーができるチームに入れば必ず復活できる。そう信じて送り出す。

本当に5人の選手には感謝している。結果としてこのような発表になってしまったことは残念である。折りしもこの不況、少しでも早く移籍先等が探せるようにしてくれたと思いたい。最後にもう一度「本当にありがとうございました。新天地での活躍を願っております。」

<まだ契約更改されていない選手すべてに向けてのメッセージ>

(FC岐阜サポーターとしては失格の発言だが)まず自分のステップアップを考えるべき。正直な気持ちを言うと、どこか良いオファーがあったら受けてほしい。移籍したからと言ってポジションの確約は無いし、出場できないかもしれない。やるだけやって、もう一度このチームでやれる可能性があれば戻ってきてくれればいい。もしこのチームと対戦する時は、見返すつもりで思いっきりぶつかってください。プロ選手である以前に、一社会人として立派に成長している姿を見せてもらえれば納得できる。私はプーイングでは迎えず拍手や声援で迎えることを約束する(愛のあるプーイングなど理解できない人間である)。それがFC岐阜というチームに関わってくれた選手に対する礼だと信じている。(ち～な)

【セカンド】 東海リーグ昇格を目指す戦いが 現在進行中！

12月5、6日の2日間のトーナメント戦で勝ち抜けば、県リーグから東海リーグへと昇格します。かつてTOPチームも歩んできた道。この入れ替え戦を突破することが伊藤監督の最大目標。今日のJ2リーグ最終戦のハーフタイムには初日の結果が出ています。プロとアマチュアの立場や存在目的に違いがありますが、共にFC岐阜という名を持つチーム。彼らもまた、日々の生活など多くを犠牲にしてがんばっています。伊藤監督を筆頭に頑張るスタッフや選手達を応援してください。(ち～な)

【編集者より】東海社会人サッカートーナメント大会とは、東海社会人サッカー連盟に所属する4県(岐阜・静岡・愛知・三重)の県リーグから、東海リーグ2部への昇格を決める大会。例年1月上旬に開催の大会ですが、今年は12月上旬に開かれます。4県による持ち回り開催で、今年の会場は静岡県藤枝市。出場チームは以下の通り。

岐阜 1位: FC岐阜 SECOND 2位: NK可児
静岡 1位: S.B.R. 2位: FCアスクラロ沼津
愛知 1位: F.C.ゴール 2位: 名古屋WEST FC
三重 1位: ホンダ鈴鹿 FC 2位: KVN伊賀 FC

セカンド部隊は、本日1時より名古屋WEST FC(愛知2位)と対戦。勝利すれば、翌6日の1時から藤枝総合運動公園サッカー場(かつてTOPチームが東海リーグで戦った「藤枝市民グラウンド」とは違います)で『ホンダ鈴鹿×アスクラロ沼津の勝者』と対戦します。この試合に勝てば、東海リーグ2部昇格となります。詳しくはFC岐阜公式ウェブサイトを参照してください。(吉田鑄造)

【ユース】 FC岐阜の“ダイヤの原石”にも注目です！

FC岐阜には今年から活動を始めたユースチームがあります。彼等はホーム試合の運営では毎試合グリーンズと一緒に頑張ってくれてますし、公式HPに「Jユースサンスターニックカップ」というカップ戦が紹介されていたので、応援へ行く事にしました。予選リーグは4チームがホーム&アウェーで対戦。岐阜以外は全て歴史も力もあるチームである一方、岐阜はまだ創設1年目の生まれたてホヤホヤ。結果的には6戦とも大敗でしたが、試合中岐阜の選手たちは一生懸命にピッチを走り廻っていましたし、試合後はGMや監督等の話を悔し涙流して聞いている姿を見て、「大丈夫、来年・再来年はもっともっと強くなれるよ」と感じました。これからも応援し続けるから、頑張ってください。(シュナ)

サポーターズクラブ『G-style』より： 来週・12/13は天皇杯準々決勝・名古屋戦！

12/13は名古屋市瑞穂陸上競技場で天皇杯準々決勝の名古屋戦が行われます。初のベスト8、そして昨年の天皇杯4回戦で悔しい負けを喫した名古屋が相手。今度こそ選手、サポーターが一丸となって勝利をおさめ次なるステージに駒を進めたいところです。そこで私達サポーターズクラブG-styleでは昨年同様サポーターが同じ電車に乗り合わせ、会場に乗り込むべく「緑の人がなんとなく固まって瑞穂競技場を目指そう」ツアーを企画しました。当日10:45にJR岐阜駅の2Fどりの窓口付近に集合、電車で会場に向います。そして11:45に金山総合駅 JR東海ツアーズ前付近を2次集合としてここから地下鉄で会場へ向かう、というスケジュールです。JR東海道線をご利用になれない方はこの2次集合場所をご利用ください。なお、ツアーと名称はついておりますが、旅行保険等かけるわけではありませんので、行動は各自の責任において行っていただきます。また試合終了後の行動に関しましては、各自自由とさせていただきます。詳しくはG-styleブログ(<http://green.ap.teacup.com/allgi/fu12/>)でご案内しております。FC岐阜を応援される方ならどなたでも参加可能です。ぜひ皆さんの力を結集して勝利を掴みましょう。(G-style TAG)

今年の、そして来年のFC岐阜へ。

サポーターの皆様、今季お疲れ様でした！
途中から皆様の前では、お伝えできないことになってしまい、
たくさんの方にご迷惑をおかけしました。それでも、スタジアムに足を運ぶたびにたくさんのサポーターの方に元気の出る言葉をいただいたこと。それが、私の今の原動力になっています。ただ、スカパーでのアウェイ観戦を含め、密かに全試合見て、応援していました！！

1年たって、若い選手たちの著しい成長に驚かされました。ほんとにFC岐阜のパワーはすごいですね。ひたむきな選手たちが今シーズンの成績を生んでくれているのだと改めて感じます。今シーズンのベストゴールは、なんといっても、佐藤選手のオーバーヘッドでしょう。何度スローで見ても、ミラクルプレーですね。

思い出の試合は、開幕戦と第2クールのアウェイ仙台戦です。仕事の都合で、今シーズンなかなかアウェイに足を運べなかったのが心残りですが、開幕栃木戦と、6月7日の仙台戦はサポーターの皆さんと応援できて、思い出に残っています。

来季もさらなる成長に期待して、FC岐阜を一生懸命応援していきます！！皆様よろしくお祈りします。（おけい）

昨季終了から開幕前、いや、開幕してから不安ばかりが先行したシーズン序盤。それでも、若い選手たちがいつのまにか成長し、何度もホームで勝つ喜びを与えてくれた。自分の見識の無さを恥じるとともに、選手たちには心からの感謝を。残念ながら、5名もの契約満了選手が発表されたけれど、あとの選手が全員残ってくれたら、来季はとんでもなく楽しみなんだけども……。 (ぐん、)

今年もまた、リーグ最終節を迎える。
2007JFLは3節、2008J2が4節。当初は「年間5節！？どんだけあるんだ？」って言ってたハズの2009シーズンも、気がついたら残り1試合。そう思うと、何か無性に寂しくなるのはサポの性だろうか。

今年もまた、激動の1年だったように感じます。苦しい経営状況の中、選手の半分以上がチームを去り、大卒選手を中心に補強して始まったチーム作り。今だから白状しますが、2/22のPSM名古屋戦の時は「当然だし仕方ないけど、全然チームとして機能してないよなあ。大丈夫かな」って思っていました（苦笑）。それが、徐々にチームとして闘う集団にまとまっていった。試合終了の笛が鳴るまで選手達が諦めずに走るから、僕らも最後まで諦めずに応援できて。昨年は「何かに呪われているんじゃないか？」ってぐらいにホームで勝てず3勝だったのに、今年は5月から11試合6勝5分なんて嘘みたいな成績も残して『長良川劇場』なんて言葉も生まれて。...その後第3クールでは苦戦してるけど、でも既にホーム戦9勝7敗8分と、実は勝ち越しを決めてたりして。

6月には、この先しばらくは岐阜の1番を背負うって思ってた片桐が甲府に移籍して、でも選手達は頑張ってくれて勝ち点を積み重ねていって。今年もフロントから経営が非常に厳しいって発表があって、でも少しづつスポンサーが増えていって。そして、なんといっても今年も（降格が決まっていたけれど）格上・J1千葉に天皇杯で勝つことができて。JFL最終節でJ昇格を決めた時以来に、号泣しちゃって（照）。

...いろんなことがありました（しみじみ）。そしてまた、クラブが続いてゆく限り、今後もしもいろんなことがあるだろうし、今後クラブが続いてゆくためには、さまざまな面でサポートの輪を広げていかなければならないのだろう。この時期なので、今期でチームを去る選手も、来期に入団する選手も（一部は）発表されている。去る選手には心からの感謝を、来る選手には心からの歓迎を。でも、まだ感傷に浸るのは早い。最終節を勝利で飾って、笑顔でリーグを終えるために、全力で応援したい。それに、今年はまだ我々には試合が残っている。『天皇杯・準々決勝』。嗚呼、なんていい響きなんだ（笑）。しかも相手は名古屋。PSMでの借りをしっかり返して、元旦・国立まで行って欲しい。

今年もまた、『岐大通』の発行にご協力をいただきまして、本当にありがとうございました。紙面を借りて感謝申し上げます。来年もどうぞよろしくお祈りいたします。

（『岐大通』印刷担当：ささたく）

この『岐大通』のように、サポーターが試合に際して自主的にペーパーを作成・配布をしているところは他にもある。4節の水戸戦には、今日対戦する徳島ヴォルティスのサポーター『vortissimo! (ヴォルティッシモ)』の編集長氏が偶然観戦に訪れていた。彼は、この日の岐阜の勝ちっぷりを観て、試合後にこう言った。「部活サッカーですね」。そして、続けて「それが“岐阜のスタイル”で勝つのなら、何の問題もない」。

昨年の最終節を思い出してみよう。ホームではわずかに2勝。各クールで1つしかホームで勝てず、もしその最終節で勝てなかったら第3クールはホームでゼロ勝という、地域に歓喜を還元出来ない状態になるところだった。片桐のダイビングヘッドでなんとかその不名誉は免れた。そんな試合。そして、その試合を最後にFC岐阜を離れることになった多くの選手達。メディアには「大量解雇」の文字が並んでいる。

ぼくは、ぼくらは、来る2009シーズンに何を期待すればいいのか。大勢の新卒の選手達。大学サッカーに詳しい友人がいなければ、不安に期待が勝つことはむずかしかっただろう。でも、ぼくには一つだけ『確信』していたことがあった。「走れなくなることはない」。

昨シーズン。試合終了近くになるとピタッと動けなくなってしまった試合を観ていなかったか？序盤の快進撃が途中でウソのように停まった時、試合終了後に相手の監督に「岐阜の選手は後半は動けなくなる」と言われてなかったっけ？

今年のシーズン序盤。調子に乗れず、勝ち点を稼げない日々が続いた。しかし、明らかに昨年と違うところがあった。最後まで、選手が走り続けること。

第2クール。夏が来た。試合終盤になるとバテて止まり出す相手を凌駕する岐阜の選手達。2節からの、夏の4連勝。前半に挙げた得点は1点しかない。試合終了近くのスペクタクルは、いつしか『長良川劇場』と呼ばれた。

相手よりも動く。相手よりも走る。それは、サッカーというスポーツにおいて明確な『ストロングポイント』であり、それが結果になって現れた、今年の夏。そして、季節が涼しさを纏うにつれ、その効果が薄れたがゆえの失速。それだけでは、シーズンを好調のまま乗り切ることが出来ない、ということも経験出来た1年だった。

1年間通して観ていて、試合を経験するにつれて選手がどんどん成長していったのがわかった。もちろん、“痛い思い”をして、そこから学んだことも多いだろう。逆に、会心のゲームから自信を得たことも多いはずだ。

そして、天皇杯。今年のリーグ戦終了後に、まだ公式戦を抱えているJクラブは8つしかない。そのうちの1つをFC岐阜が占めている。はっきり言うけど、すごいことだ。Jリーグが始まってから、元日の国立に「2部」のクラブが立ったのは、15年前のセレッソ大阪しかいない。我々は、まだそこに立つことの出来る権利を有している。繰り返すけど、すごいことだ。

クラブからは、5人の選手が岐阜を離れることがアナウンスされた。他にも、このクラブを離れる選手が出てくるかもしれない。しかし、今年になって加入した選手達といままでの選手達が融合して「新しい“走る”FC岐阜」を見せてくれたのと同じように、来年もまた違う魅力をまとった「2010年モードのFC岐阜」を見せてくれるだろう。

「ギラヴァンツ北九州」の加入で来年のJ2は2回戦総当たりとなります。ホームゲームは全部で18試合。来年は、再び『岐大通』の全ホームゲーム発行に挑戦したいと思います。今年1年のご愛顧・ご愛読に深く感謝致します。ありがとうございました。来年も、よろしくお祈り申し上げます。

（『岐大通』編集担当：吉田铸造）



来年も、スタジアムで
FC岐阜を応援しよう！

今シーズン限りでの退任が発表になった松永英機監督へのメッセージ。

FC岐阜Bの監督時代も含め3年間ありがとうございました。ただただ日々かなりの時間を割いて監督業をしていたいただいたことを感謝。またどこかでお会いできることを願います。

(ちな)

名前を知ったのはアトランタ五輪の時だった。それから、メディアを通して名前や姿を目にしてきた。その頃には、こんな間近で本人を目の当たりにし、言葉を交わすような時があるとは、これっぽっちも思わなかった。

地方の弱小クラブの、金も人も足りない難しい時期で言葉にできないことも、余すことなく言いたいこともあっただろう。全ての人が納得してもらえないことはないだろうし、決して満足のない結果ではないだろう。このクラブに関わる誰にも、それぞれの想いがあるだろう。それでも...、間違いなく、ボクらは松永さんとひとつの時代を、FC岐阜にとって忘れられない時間を過ごしてきた。

ボクらはここに残り、松永さんはここを去る。多くの思い出がありがとう。いずれまた、どこかで会いましょう。お疲れ様でした。同じ学年の監督さん。(ぐん、)

契約満了をもっての退任との事。どのような事情や考えが有ったの決定かは判りません。知るよしもありませんし、知っても詮無い事かも知れません。ただ、もう何年かは監督の指導によりチームが更に成長していく姿を見て行ける物だと勝手に思い込んでいました。

岐阜に来て頂いてからの3年間。どうもありがとうございました。(シュナ)

大分での地域決勝からずっと岐阜を見ていてくれて、戸塚さんと2人3脚で岐阜を導いてくれれば.....と思っていたけど、志半ばで戸塚さんが去り、混乱状態だった岐阜を苦労しながらもJへ導いてくれたこと本当に感謝しています。

若い選手を試合で使い続けることで成長させてなんとか一人前と呼べる選手に育て上げた実績は消え去るものではありません。プロである以上契約で去ってしまうことは選手であっても監督であっても変わりません。願わくば今のメンバーでもう一年我慢して欲しい想いもありますが.....決まってしまったことですのでね.....

2年半の間、コーチも含めたら3年間本当にありがとうございました。またいつかスタジアムで.....。(ジュニア)

松永監督、3年間本当にありがとうございました。

2007年シーズンの初練習を見に行きました。大きな声で選手たちに指示を送る松永コーチ(当時)。体型からは想像できない軽やかな動きで(笑)練習を指揮していたのがとても印象に残っています。松永さんがコーチ・監督として指揮されたこの3年間は本当に苦しいことが多かったと思います。それでも限られた環境の中でベストを尽くしチームを成長させてくれた松永さん、本当にありがとうございました。勝利監督インタビューの後にメインスタンドから送った「松永！岐阜！！」コールに手を振ってこたえてくれた時の最高の笑顔、忘れませんよ！(kanihira)

時効(?)ということ披露させてもらってもいいだろう。

今シーズン開幕直前に行われたサポカン(クラブとサポーターの意見交換会)に出席した松永監督は今年のチームで目指すサッカーを「『ムービング・フットボール』をもう少し簡潔に解釈した、走り続けるサッカー『ランニング・フットボール』を標榜したい」と出席した僕たちに説明してくれた。

そして選手たちはランニング・フットボールを本当に忠実に実践してくれた。目標の10位以内は叶わなかったけれど、監督の教えは今後もFC岐阜のベースになることでしょ。本当にありがとうございました。そして「ランニング・フットボール」を天皇杯で結実させましょ。(ST57)

仕事も終わりがけに近づいてふと携帯を覗いたときに飛び込んできた松永監督退任のニュース。まさに青天の霹靂。昨日の胸スポンサー発表で少し浮かれ気味だった自分はまさに冷や水を頭からぶっかけられたような感じであった。きっと多くの岐阜サポーターも予想だにしていなかったことであろう。

JFL時代から3シーズンとも恵まれていたとはいえない環境の中でチームをJリーグ昇格に導き、また今年はチームの半分以上のメンバーが入れ替わるという中で新人たちを育て上げてきて残念ながら10位以内という目標は達成できなかったものの来年に向けて更なる期待を持たせてくれる戦いぶりだっただけに今回の契約満了・退任は非常に残念でならない。

今まで本当にありがとう、松永監督。今日の試合も勝って、そして天皇杯も国立目指しましょ！(岐阜の誇り)

2年間、FC岐阜を育ててくれてありがとうございました！岐阜を素晴らしいチームに作り上げてくれてありがとうございました！(didier)

松永英機監督には感謝の気持ちでいっぱいです。夕方、ギフチャンのニュースで「退任」の一報を聞き、(.....);エッ...?なぜ?まさか!と思いましたが、現実だったんですね。

正直言って、来シーズンも間違いなくFC岐阜の監督は松永氏だと。JFL時代の苦しい時期にFC岐阜の監督を引き受けられて以降、2シーズン半もの長期にわたってチームの育成・強化に力を発揮していただきました。やはり、一貫した育成のお陰でぶれることなくFC岐阜がここまで登ってくる事ができたのではないかと思っています。任期満了と志半ば...まだまだFC岐阜は発展途上のチームなのに、、、、というより、方向性が固まってきて、さあ来シーズンこそ!このまま、来シーズンも指揮をとっていただけたら.....。

しかしながら、決まってしまったものはどうしようもありません。私も徳島戦、そして天皇杯、、、チーム同様、監督にも声援を贈りたいと思います。来シーズン以降、どの道へ進んでいかれるのか?私には知る由もありませんが、ますますのご健闘を祈念しております。ありがとうございました。フレーフレー松永!!(ecobaron)

松永サッカーは岐阜の誇り、松永ISVがあったから俺たちはどんな相手にも正面から堂々と挑むことができた！岐阜を率いてくれて本当にありがとう！ファンを大切にしてくれた監督のおかげでサッカーが大好きになりました。大好きだよヒデキ！(若)

あなたがいてこそその長良川劇場でした。あなたは岐阜の名将です。感謝感謝です。(リュウ)

振り返ってみると、目標の『J昇格』に不安が見え出した2007年JFLシーズン途中で戸塚前監督からチームを引き継ぎ、苦しみながらもJ昇格を達成してくれた松永監督。今年は、加入選手の多くが大卒新人選手と、去年より更に苦しいチーム事情にも関わらず、これまで12位と健闘し、天皇杯ではJ1千葉を破ってベスト8。これは、選手達の頑張りもさることながら、監督の手腕に依るところも大きいと思う。

監督には、チーム戦術を練習を通して選手達に浸透させる『戦術家』の手腕と、試合の最中にチームバランスを調整・変更させる『勝負師』の手腕が必要なのだと僕は思っている。松永監督は、勝負師の側面については若干苦手だったかもしれないが、戦術家としての能力は素晴らしかったと思う。『ブラジルに勝利した日本代表の分析担当』ってのは伊達じゃない。今西GMも「松永監督は育成型」と評価していたのが思い起こされる。今年、若い新人選手が多いチームでこれだけの成績を残してくれたのだから、経験を積んだチームで来年は更に...と、来期も続投してくれるものと思込んでいただけに、とても驚いている。

でも、これも世の常。松永監督...いや、ヒデキ、本当にありがとう。僕らの町に『J』を連れてきてくれて、僕らに『J』の世界を教えてくれて、ありがとう。(ささたく)

昔話。この『岐大通』第1号はFC岐阜がJFLの時代に発行された。発行の前日に知らされた、当時の戸塚監督の交代発表。ぼくは次の第2号で「監督交代について」と題して読者の方々の意見を求めた。是だというひと、非だというひと。さまざま。そんな中、監督を引き受けた松永氏は、キチンとJFLからJ2への加盟を満たす成績を実現し、『J』2年目の今年は昨年未のいわゆる“大量解雇”でチームを最初から作るような状況で、クラブが目標と定めた10位という順位にあと少しというところまで来た。そして、なんてたって「公式戦でJ1を倒す」ということを実現出来た。とても感謝しています。ただ一つ寂しかったのは、今年8月のサポ交流パーティーでお話をさせていただいた時に、この『岐大通』のことをご存知なかったこと、でしょうか(苦笑)。

2年半の間、FC岐阜を率いてくださり、ありがとうございました。松永・岐阜の戦いの締めくくりは、来年元日の国立競技場といきましょう。(吉田鑄造)